

# わかりやすく伝える 原発と事故の実態

国会事故調の報告書内容を、幅広く伝えるために活動している団体がある。「わかりやすいプロジェクト国会事故調編」だ。報告書作成に携わったメンバーが2012年9月に始めた活動だという。

文字通り、「わかりやすさ」に重点を置き、国会事故調報告書の伝える活動をしている。ワークショップや講演会、大学での講義やゼミ、中学・高校での学習などを開催。「なぜ」を追求し、主張に重点を置いた討論の場ではなく、対話によって理解を深めることを大切にしている。

代表の石橋哲さんは元銀行員。国会事故調には調査統括補佐として参加し、プロジェクトマネジメントを担当した。JASTJ 再検証委員会では国会事故調の黒川委員長をインタビューする際、同席していた石橋さんからプロジェクトの概要について説明を受けた。

事故調査報告書の内容をわかりやすく伝える取り組みとして、書籍形式の「ストーリーブック」や、動画の「イラストレイテッドビデオ」がある。だれでもウェブサイトから閲覧できる。

ストーリーブックは現在4冊。「原発事故そして未来」「規制の虜」「原発事故の人的被害」「報告書を読む」だ。国会事故調が導き出したもっとも大切な要点を、絵本のようなスタイルでやさしく説明している。「規制の虜」という問題提起についても、事故の経緯を解き明かすなかで、実際の規制の状況が本来の健全なあり方から離れ、規制する側とされる側の力関係が逆転するおかしな状況になっていたことを平易に説いている。こうした力関係の逆転が起きた「種明かし」として、当時の規制当局がいかにか電気事業者から操られていたかが述べられている。

動画は6本。その一つ「事故は防げなかったの？」では、東京電力が最初は「想定外の津波が起きた」と事故原因を説明していたこと、しかし建設時は少ないと見られていた地震や津波の危険性がその後の調査で「安全ではないことが分かっていた」と解説している。

大部である国会事故調の報告書をすべて読むのは、なかなか骨が折れる。プロジェクトの数々の労作は、報告書の要点を素早く正確に理解する大きな手助けになるだろう。



「わかりやすいプロジェクト国会事故調編」のウェブサイト (<http://naiic.net>)